

弥生小学校の学校適正配置（統合等）

黒砂台高灯会・ハッコー稲毛マンション自治会対象説明会 報告

1 日時・会場

平成21年2月8日（日）午後5時～6時30分

黒砂台高灯会集会所

2 会次第

(1) 開会

(2) 教育委員会挨拶 山崎教育総務部企画課長

学校適正配置の趣旨と背景

千葉市では、昭和40年代から50年代にかけての人口急増に伴い、数多くの小中学校が建設された。

その後、小学校の児童数は、昭和56年度に約92,000人をピークに、減少期に入り、今年度は約53,000人となっており、この過程で、多くの小・中学校で小規模校化が進んだ。

今年度現在、小学校については、120校中、45校が12学級未満の小規模校であり、中学校は、稲毛高校附属中学校を除く56校中、29校が小規模校である。

また、その一方では、開発により、大規模校化が急激に進んでいる小・中学校が各区の一部に存在している。

学校適正配置の趣旨は、学校間における教育環境の不均衡や、学校の小規模校化、また大規模校化によって生じる教育上あるいは、学校運営上の諸問題を解消するとともに、子どもたちのよりよい教育環境を整備し、教育の質の充実を図ることにある。

本市では、平成16年度から、第1次学校適正配置に取り組み、平成18年4月に本市初の統合校『花島小学校』を開校した。

この第1次学校適正配置の取り組みの過程で、地域コミュニティとの整合性を図ること、将来を見据えた学校適正配置計画が必要であることなど、いくつか課題も明らかになった。

これらの課題を踏まえ、平成18年度からは、第2次の学校適正配置への取り組みをスタートさせ、平成19年3月に学識経験者や保護者・地元代表者からなる「第2次千葉市学校適正配置検討委員会」から「学校適正配置の基本的な考え方」が答申された。本市では、この答申を踏まえて、平成19年10月に「千葉市学校適正配置実施方針」を策定し、現在同方針に基づき、学校適正配置を推進している。

(3) 職員紹介

千葉市教育委員会教育総務部企画課 山崎課長、古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補

(4) 学校適正配置実施方針の概要と弥生小学校の適正配置について

ア 学校適正配置実施方針の概要

- ・「千葉市学校適正配置実施方針概要」説明
- ・小規模校を適正規模にすることで何が良くなるか【資料2ページ】説明
- ・小規模校が分散してある場合（Bパターン）【資料7ページ】説明

イ 弥生小学校の適正配置について

- ・弥生小学校及び周辺の小学校の平成26年度までの児童生徒数等の状況【資料8ページ】説明
- ・今回の提案内容

弥生小学校は「千葉市学校適正配置実施方針」の中で、Bパターン地域の学校として、隣接する学校との統合又は学区の調整により、適正規模化を図ることとしており、隣接する小学校としては（弁天小）・緑町小・轟町小があげられている。

一方、緑町小学校は、耐震等の関係で全面改築されることとなり、現在基本設計を行っており、工事が完了するのは、計画上は、平成25年度の予定である。

そこで教育委員会としては、緑町小学校の改築を機に弥生小学校と統合を行い、緑町小学校の位置に適正な規模の学校を作り、教育環境を整え、新しい校舎の中で、子どもたちを生活させてはどうかと考えている。

弥生小学校の適正規模化を図る方法としては、学区の調整も考えられ、相手校も緑町小学校だけではないが、教育委員会としては、今回の提案が現状では最善の提案であると考えている。「実施方針」にも示しているとおり、適正配置は合意形成を基本として進めており、関係住民・保護者間等と十分協議するなかで、より合理的な提案があれば、それも含めて十分に検討していきたい。

なお、現在の緑町小学校の改築計画は、統合を前提としたものではなく、普通教室数も緑町小学校の児童数の推計を基にしたものとなっているが、もし弥生小学校との統合について合意形成がなされれば、その時点で普通教室数等についての、変更が可能であると考えている。

・通学区域について

通学区域は、基本的には、統合校（緑町小学校の位置）及び緑町中学校となる。

しかし、弥生小学校は学区が横に長いので、統合校の位置である緑町小学校から、通学距離が遠くなる地域が出てくるのが想定されるので、地域・保護者の希望があれば、通学距離が近く通学の安全確保が容易な学校を選べるよう、小学校については、轟町小学校又は弁天小学校を、中学校については、轟町中学校又は椿森中学校を選択できるよう柔軟に対応したいと考えている。（ただし、新宿中学校は教室不足の状況が予想されるため、選択できない。）

「実施方針」では、通学区域の設定に当たっては、地域コミュニティとの整合性に配慮することとしているので、通学を希望する学校について、地域としてまとめることができれば、より望ましいと考えている。その場合は、統合校が開校する年度に、該当地域の学区そのものを統合校及び緑町中学校ではなく、地域として希望する学区に変更する。

・統合校の規模

もし、現在弥生小学校に通学している子どもたち全員が、統合校を選択することになったとすると、平成26年度推計で、19学級の規模となることが予想される。

・今後の進め方

12月に弥生小学校の保護者対象の説明会を行い、今回、黒砂台3丁目にある自治会対象説明会を行った。今後、他の自治会でも説明会を行う予定である。その後、必要に応じて説明会を重ねていきたい。

次に、地元や地域の代表者からなる「地元代表協議会」を設置し、合意形成を目指した協議を行いたい。

(5) 質疑応答

Q1 今回の説明会の内容を文書で示すことはしないのか。

A1 議事要旨を作成するなどして、工夫したい。

Q2 轟町中学校が現状の推計でも平成26年度に小規模と予想されているが、弥生小学校区が緑町小学校区に変更すると、さらに生徒数が減ってしまうのではないのか。

A2 現在の弥生小学校区内の子どもたち全員が、緑町中学校に通うことになることとすると、平成26年度推計で、緑町中学校は12学級の適正規模となる。また、轟町中学校は平成26年度推計で9学級となる。

現在協議が進められている美浜区のある「地元代表協議会」では、中学校の9学級という規模は、適正規模の基準から言うと小規模校ではあるが、免許外の教員がほぼ出ないであろう規模であり、各学年3学級でクラス換えが可能でもあることから、当面、現状を維持することもできるのではないかという議論もある。

また、轟町中学校については、轟町中学校と轟町小学校の1中・1小の学区となること、轟町中学校と轟町小学校は隣同士であること、轟町小学校は、平成26年度推計で18学級であり、轟町中学校と同様に各学年3学級となるといった状況を生かした対応も、今後研究していきたいと考えている。

Q3 新設統合校をつくるということだが、弥生小学校全体が緑町小学校と統合することが前提ではないのか。今の提案では、弥生小学校が解体すると言った方がよい。

A3 基本は弥生小学校と緑町小学校との統合である。

Q4 弥生小学校の校舎の耐震補強が平成23年度に、屋内運動場の耐震補強は平成24年度に計画されているとのことだが、予定どおり行うのか。

A4 所管では、そのような計画であると聞いている。

Q5 「希望があれば通学距離が近く通学の安全確保が容易な学校を選べる」というが、どの程度のものなのか。弥生小学校の学区が分かるとなると、友達がどこに行くのかがわからなくて不安である。全員が轟町小を選ぶことはできないのか。

A5 確かに、自分の子どもはこちらの学校、隣の子どもはあちらの学校というのは、望ましい状況ではない。地域コミュニティと学区の整合を図るためにも、通学を希望する学校について、地域としてまとめてほしい。例えば、この地域の学区を統合校開校時に轟町小学校の学区に変更することは可能である。

- Q 6 何を基準に「地域」と呼んでいるのか。
- A 6 一概に何をもって、「地域」とするかは決めることはできないが、今回この説明会を行った黒砂台3丁目の二つの自治会に関係する地域で、通学する学校の希望をまとめることも考えられる。
- Q 7 いつから新しい学区になるのか。学区の弾力化は可能なのか。
- A 7 地域として学区の変更の希望が出た場合、統合新設校が開校する年度に、通学区域を変更する。
- Q 8 我々は轟町中学校とのつながりが大きい。緑町小学校との統合だけではなく、轟町小学校との統合の両面で考えてほしい。
- A 7 教育委員会としては、今回の提案が現状で最善のものと考えている。
- Q 9 統合が決まった段階で、他の学校に通学する子どもが増えたらどうするのか。
- A 9 統合校が開校する前に、学区の変更や通学区域の弾力的な運用は考えていない。
- Q 10 9番事由での学区外通学の申請は増えるのではないのか。
- A 10 千葉県は学区制をとっているので、申請があっても、事由が妥当でない限り承認しない。
- Q 11 適正規模の学校にすることの良い点はよく分かったが、デメリットとなる点はあるのか。
- A 11 「統合後1学級当たりの人数が統合前よりも多くなる可能性がある。」「通学路が変更する。」「子ども同士の話がまとまりにくくなる。」といった、若干の混乱は、特に統合したばかりの時期にはあると考える。こういった統合時の変化を和らげるために、「実施方針」にも示しているとおり、通学路の安全確保・教員等の配置など、統合に伴う教育環境の整備を行うことにしている。
- 意見 花島小の場合は対等合併だが、今回は状況が違うと考える。
- 意見 緑町小学校に通学するには、信号のない道路を渡ったり、踏切を渡ったりしなければならぬ。地区として、轟町小学校を選ぶのか、緑町小学校を選ぶのかを決めていきたい。

(6) 閉会